



平成21年5月18日  
川崎市立柿生中学校  
郷土史料館情報・研究誌  
第10号

二宮尊徳の思想と白井義胤 — その背景を探る —  
—— 柿生の教育の原点を知る ——

校長 板倉 敏郎

前号で紹介しました、江戸時代後期の思想家であり、偉大な農業指導者である二宮尊徳の考え方の基本は、「勤儉(勤勉で儉約すること)」「分度(自分の経済的なかに応じた生活すること)」「推譲(自分の余分の財を他に譲ること)」でした。言い換えますと、自分に与えられた才能をもとに一生懸命働き、節約することを忘れず、自分の収入にあった生活をする。余った財力は他に譲ることによってまわりを豊かにし、やがては村や町をそして国全体にまで及ぼすことができるという考え方です。



(二宮尊徳肖像)

この考えは明治期になって弟子たちによって広く全国各地に広げられます。

これらの考え方は、安田財閥を興した安田善次郎(1838~1921)や日本最初の銀行を設立した渋沢栄一(1840~1931)、真珠の養殖で有名な御木本幸吉(1858~1954)に影響を与え、さらにトヨタ自動車の創業者である豊田佐吉(1867~1930)は、尊徳の「我が道は、至誠と実行のみ」の言葉に忠実な人生を歩んだといわれています。最近では、松下電器(現、パナソニック)の創業者の松下幸之助(1894~1984)や元経団連会長の土光敏夫(1896~1988)なども皆、二宮尊徳の思想に強く影響を受けた人物であります。特に明治期の実業家の多くは、尊徳の「推譲」の考えに心を打たれ、進んで社会事業や学校の建設など教育活動に貢献するようになりました。それが、尊徳の思想の実践であるという自負もあったといわれています。

同じく、明治期に柿生の教育にとって大変な功績を残した人物がおります。本校の教育の森に頌徳碑(しょうとくひし)があります。手狭になった高等柿岡小学校の新校舎設立に大変尽力されたのが下麻生出身の富豪 白井義胤(しらいよしひ)氏でした。

そして、現在の柿生中学校の場所に新校舎が建設され、明治35年4月15日に柿生・岡上両村をあげて開校式典が催されたといえます。

白井義胤氏は、学校建設にあたり、建設委員の村人が何名かで、東京麻布の邸宅を訪問したところ大変丁寧に通され、巨額の寄付のお願いを快諾されたといえます。

氏のこのような行為も間違いなく二宮尊徳の考えによったものと思われます。

やがて、昭和10年7月23日、現在の教育の森に、尊徳の勤労の気風を高めようと二宮金次郎像が建立されました。また、尊徳の考えを学ぼうと学校に報徳文庫が設置されたのもこの年の事でした。



(白井義胤と頌徳碑)

## シリーズ 「柿生の歴史を探る」

## 第9話

## 万葉集 一歌碑

万葉集「防人の歌」は、奈良時代の農民の生活を表した歌として知られていますが、この近くでは、都筑の防人服部於田（はとりべのうえだ）、その妻服部若女（あざめ）の歌碑を、青葉区みたけ台の祥泉院境内と旭区白根の不動の滝公園に、そして橘樹の防人物部真根（はとりべのまね）、その妻椋椅部弟女（くちはしのべのおとめ）の歌碑を金程の万葉苑にみることができます。

都筑の防人の歌碑には、「わが行きの 息衝（つ）くしかば足柄の 峰延（は）ほ雲を みとと偲はね」「わが夫なを 筑紫へ遣りて愛（うつく）しみ 帯は解かなな あやにも寝も」の二首が記され、防人に送られていく農民夫婦に悲哀と情愛に胸を打たれます。橘樹の歌碑には、「家ろには葦火焚（あしびた）けど住み好けを筑紫に到りて恋しけもはも」「草枕旅の丸寝（まるね）の紐絶（ひもた）えば我が手と付けろこれの針持（はりも）し」と二首記されており、葦火で焼けても離れ難い竪穴の住居、夫の旅路を気遣う妻、夫婦の惜別の思いがひしひしと感じられてまいります。



祥泉院境内の万葉歌碑

遠い1300年の昔、文字の読み書きの知らない東国農民に歌詩が作れたとは思いません。しかし、人には言葉があり情感があり、人の集まるところに踊りがあり歌謡もあったのでしょう。

そうした口誦が万葉集として編纂され今日に残るのは驚くべきことです。遺跡は言葉を語ってくれませんが、万葉の歌は、地域に生きた古代人の生活、人の心は今も昔も同じを知らしめてくれています。

それでも服部夫妻、物部夫妻はどこに住んでいたのでしょうか？みたけ台の歌碑は、昭和33年付近に遺跡が多く「ふさわしい所」として建てられましたが、ここからは、丹沢山塊に隠れて足柄峠は見えぬそうです。旭区白根の歌碑は、古くから景勝の地として知られた不動の滝のそばに、旭区と観光協会が平成9年に建てていますが、付近は遺跡に乏しいといわれています。橘樹の防人物部真根夫妻の金程万葉苑は、地元郷土資料館が川崎を代表する歌として紹介したもので、麻生区には葦が生まれませんから、物部夫妻は現高津区か宮前区の低地に住んでいたと述べています。

麻生区内の奈良・平安時代の遺跡は、早野、王禅寺、麻生、片平、岡上と、鶴見川中流域に多く、上麻生山口遺跡からは、竪穴住居26戸、掘立住居17戸、岡上丸山遺跡からは年代が重なるものの90戸の住居跡が発見されています。従って人の交流、歌や踊りもあったに違いありません。前稿東歌「麻苧らを・・・」の作者は、からむしが自生する早野、下麻生あたりとされています。

麻生区からは、「足柄の峰延の雲」は見えます。機織りを職とする服部の氏族、3台も発見されている紡錘車。してみると、防人の服部夫妻は麻生区に住んでいたのではないかと推測されます。

(参考 鑑賞 「麻生区と万葉集」 渋谷益左右氏  
文、小島一也氏

# 柿生人物誌 「河上徹太郎」

— 柿生の自然を、  
こよなく愛した評論家 —

河上徹太郎は、戦災にあったことで昭和25年頃から柿生に居住するようになりました。昭和45年1月6日の神奈川新聞に柿生についてこんなふうに書いています。「この多摩丘陵のような大らかな起伏の上に耕地と山林がとりどりの草木で覆われた地形は、めずらしいのである。この自然に恵まれて、春は蕨(わらび)採り、冬は狩猟と存分に楽しんだ。桜や紅葉はとぼしいけど初夏の柿若葉と晩秋の櫟(けき)の黄葉はこの地方に独自の輝かしさがある」と柿生の自然に十分堪能

河上徹太郎(1902~1980)  
昭和元年に東京大学を卒業  
在学中に小林秀雄を知り、  
雑誌『山繭』に『音楽と自然』  
を発表し、純粹芸術の  
理論を展開した。

以後、文壇に認められ平  
行して音楽評論も手掛けた  
。72年文化功労者となる

されているようです。一方、こんなことも書かれています。「庭から見下ろすとチラホラ藁(わら)屋根が木立のなかに見えるだけだった眺めも近年、点々と勤め人向きの住宅が建つようになった。のみならず、各所にブルドーザーの大部隊が現れ、緑の山を削り、谷を埋め、赤土の大団地が出現する。おまけに私の裏山には、私鉄の支線が通ることになった。まさしく、私にとっては、『田園まさに荒れんとす』である」

この文章中の景色は昭和45年のことですからちょうど柿生の開発が急激に進んできた頃です。

文章の様子から氏の自宅は現在の小田急多摩線沿線近くで、他の文には柿生駅から歩いて30分と書かれていますから大体予測がつかます。

よき時代の柿生の姿が彷彿とされます。



(愛犬ボビーと自宅近くの山を狩猟する河上氏 昭和45年頃)

## 第11回 柿中カルチャーセミナー 開催

(3月12日)

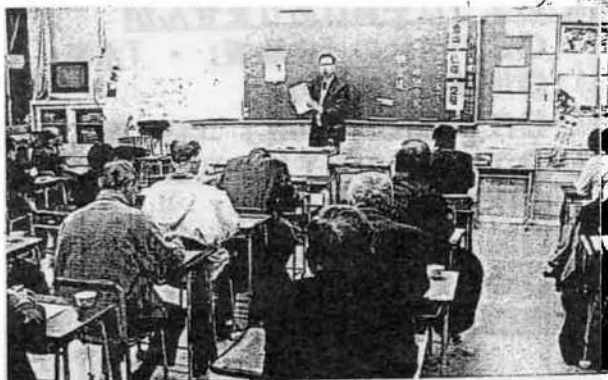
(テーマ) 鎌倉道 — いくさ、交易・信仰 —

(講師) 中西望介氏 (郷土史家)

第11回カルチャーセミナーが3月12日、本校教室で開催されました。

講師の中西望介氏は郷土史家として活躍されており、第9回のセミナーでは、「板碑」をテーマにご講演いただきました。

今回は、「鎌倉道」をテーマにお話をいただき、鎌倉道の「上の道」「中の道」「下の道」の各ルートを政治・経済・宗教的見地からそれぞれ具体的な地名をあげながら講演いただきました。



(講演する中西氏)

## 郷土史料館史料の寄贈に感謝!

鳴志田勝治氏より 江戸期「火縄銃1丁」その他を寄贈

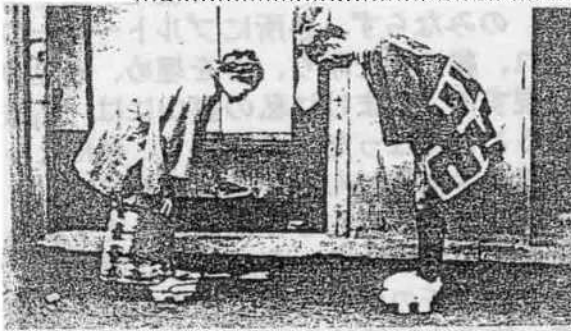
このたび柿生中学校郷土史料館収蔵品として、上麻生の鳴志田勝治氏より江戸期製造の火縄銃1丁と生活古民具数点を寄贈していただきました。大変ありがとうございました。未長く郷土史料と



して、収蔵させていただきます。火縄銃は、天文12年(1543年)ポルトガル人によって種子島に伝わり戦国時代から江戸後期にかけて広く使われました。当時の射程距離は、約200mで最大射程は1000Mに達し、命中精度は30mの距離で直径10cmの円に命中させることができ、発射速度は1分間に4発だったそうです。

— 英字新聞「ファーイースト誌」がとらえた日本の姿 — NO3

### 幕末期の写真から捨う人々の生活



日本人のあいさつの姿は、今も江戸時代も変わりありません。左の写真は、はんでん姿の職人と隣のおかみさんといったところです。敷居をまたぐとその向こうがすぐ部屋になっています。

### 郷土史料館「史料」の寄贈・寄託のお願い

22年に完成する本校の「郷土史料館」に収蔵する柿生・岡上に関する歴史的資料を探しています。ご自宅で保存されている史料(古文書や生活道具類)でお譲りいただけるものや、一時、お貸しいただけるものがございましたらお知らせください。しっかりとした管理体制で収蔵します。よろしく願いいたします。

**今、地域の史料を探しています!**

**協力してください!**

#### このような史料はありませんが

- ◎江戸時代の「検地帳」・「水帳」・「五人組帳」
- ◎地域の「絵地図」
- ◎江戸時代の「高札」(特に慶応4年の太政官布告「五榜の掲示」など)
- ◎江戸時代の寺子屋や私塾で使用した「教科書・往来物」
- ◎明治期発行の「地券」
- ◎明治・大正・昭和(戦前・戦中)の「国定教科書」
- ◎その他各種史料

寄贈・寄託していただく史料がありましたらご一報ください。

柿生中学校 044-988-0004 黒川まで